

(学年) 第1学年, (教科・科目) HR 活動・人権教育

協働学習

(単元) 障がい者について

(本時のねらい)

障がい者を取りまく現状について考え、障壁や障がい者に対する理解を深めさせるとともに、障がい者が生活しにくい環境の要因として、社会の中に健常者中心の考え方(意識上の障壁)があることに気付かせる。また、「障がい者の思い」に触れることによって、「共生社会」が実現されるために必要な合理的配慮を理解し、あらゆる人権問題解決に向けた普遍的・実践的態度を身に付けさせる。

(ICT活用方法)

導入、展開、まとめそれぞれにおいて、プレゼンテーションソフト、電子黒板を利用することで効果的、効率的に授業を進めることができ、生徒の積極的な取組を促すことができた。

(本時の展開)

時間	学習活動	指導事項	I C T活用方法
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 障がい者が感じている障壁への意識を芽生えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「聴覚障がいとマスク」についてプレゼンテーションソフトで説明する。
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートに示した障がい者に関するマークについて知る。 写真やイラストを見て、気付いたことや改善策を班で話し合う。 社会的障壁解消に向けての取組について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 知ることによって日常生活において自らできることを気付かせる。 当たり前前に感じていたことが健常者の視点であることに気付かせる。 改善策を考えることで、「すべての人が使いやすい」という視点が大切であることに気付かせる。 誰もが安心して暮らせる社会を築くために4つの社会的障壁(バリア)を取り除く必要 	<ul style="list-style-type: none"> 障がい者に関するマークについてプレゼンテーションソフトで説明する。 社会的障壁解消についてプレゼンテーションソフトで説明する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 野球観戦の図を見て、すべての人が観戦しやすい方法を考える。 ・ 合理的配慮について学習する。 	<p>があることを伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「平等」な配慮より「公正」な配慮をすることで、すべての人がよりよく生活できる場合があることに気付かせる。 ・ 一人一人に合った配慮を考えることが必要であることに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 合理的配慮についてプレゼンテーションソフトで説明する。
<p>まとめ 5分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時のまとめを聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障がい者の思いと共生社会について考えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料「障がい者の立場から「共生社会」を考える」（岡山短期大学山口雪子准教授）を用いてプレゼンテーションソフトでまとめを行う。

(授業の様子) 使用したワークシート

人権 HR 活動 ～障がい者の思い～ R3.12.1

前前

1. 障がい者に関するマーク

2. 以下の写真やイラストから気がつくことや改善策を考えてみよう。

番号	気づいた点	改善策

◆ 社会的障壁（バリア）◆

- () : 道路、建物、交通機関の段差、エレベーターの不備など
- () : 障がいを理由とする資格や就業の制限
- () : 事業促進、点字、手話サービスの不足
- () : 障がい者に対する差別、偏見、無関心

◇ 問題解決に向けての取り組み ◇

□ () : 障害者差別解消法 () : 2016年に施行。この法律では障がいを理由とする「不当な差別取り扱い」が禁止されると共に、社会的障壁の除去を必要とする障がい者への「 () 」の提供を行うことが定められた。そして、障がいのある人への差別をなくし、障がいのある人もない人も、互いにその人らしさを認め合いながら、共に生きる社会をつくることをめざしている。

□ () : () : 年齢や性別、身体的能力などの違いにかかわらず、皆からすべての人が使いやすいように、製品や建物、空間をデザインしようとする考え方。

3. 3人が野球を観戦しやすくするためには、どうすればいいと思いますか。



[]

□ ()・・・障がいのある人から、社会の中にあるバリアを取り除くために何らかの対応を必要としている意思が伝えられたときに、負担が重すぎない範囲で対応すること。

4. 本日の感想

[]

5. 自己評価

	できた			できなかった		
障がいのことについて考えることができた	5	4	3	2	1	
さまざまな視点から考えることができた	5	4	3	2	1	
授業に積極的に取り組むことができた	5	4	3	2	1	

(生徒の反応と課題、改善を要する点)

プレゼンテーションソフトや電子黒板、ワークシートを活用したことで効果的、効率的に学習を進めることができた。展開(40分)の、写真やイラストを見て、気付いたことや改善策を班で話し合う時間では、生徒は自ら考え、グループ活動に積極的に取り組み、協働学習が実践できていたと思う。導入や展開部分の最初で効果的にICTを用いて授業を進めることができたことが、生徒の取組につながったのではないかと感じている。

展開の後半部分の合理的配慮について、もう少し考えさせる時間、理解を深めていく時間を取りたかった。ICTを活用したことでスムーズに進めることはできたが、最後まで進めることを優先して授業の後半は授業者が話をするのが中心になってしまったことが心残りである。